

講義名	観光政策論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	辻本 千春		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>今観光は社会から注目を浴びています。日本をリードする新しい産業がなかなか生まれてこない中、観光という日本が誇るべき資源が観光を浴びています。観光政策論は観光学という専門分野学習のスタートラインにある科目のひとつとして「概略」を理解することになりますが、わが国がどのような観光政策を実施しているかは観光白書に網羅されています。</p> <p>この科目では大きく4つの観点からテーマを設定して授業を進めます。一つは、観光政策の変遷、現状について歴史的な背景も含めて学びます。二つ目は観光の地域への影響、実施方法、計画や事業としての実際を学びます。三つ目は、海外の先進事例から日本のこれからの参考になる政策について学びます。4つ目は、学ぶだけでなく、神戸という観光都市をケーススタディとして取り上げて一緒に考えます。</p> <p>観光政策論は経済論・産業論であると同時に国土づくりに係わることであることを念頭に置いて履修してください。</p>			

到達目標	
a. 知識・理解	・観光及び観光政策の定義について説明できる。 ・観光政策の歴史的変遷について述べることができる。
b. 思考・判断	・観光政策の政策全体における位置づけを理解し、その課題について説明できる。
c. 関心・意欲	・日本の観光政策を海外のそれと比較して述べることができる。
d. 技能・技研	・学んだことを自らのキャリア形成に関連付けることができる。
e. その他	・学んだ観光マネジメントの手法を身近な観光関連産業に当てはめて考えることができる。

提出課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、授業内容の課題について回答を書いてもらいます。</li> <li>・授業内容から、あるいは自分の考えを整理してまとめて提出してください。</li> <li>・9回目の授業の後、各自で神戸の観光地を現場で調べてレポートを作成し、12回目に発表します。</li> </ul>	
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の回答から読み取れる皆さんからの疑問や誤った理解に対して、次週の授業のはじめに解説、修正します。</li> <li>・質問欄に書かれた質問に対する答えも回答します。</li> </ul>	

評価の基準	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回数の3分の1（5回）以上を欠席すると定期テスト（あるいはレポート提出）の受験資格（単位）はありません。</li> <li>・平常点40%（毎回の課題回答の内容、授業態度など）、定期試験（またはレポート）60%として、総合評価とします。遅刻、欠席は減点します。</li> </ul>	

履修にあたっての注意・助言他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学ぶ基本は重要ですが、観光に関する情報は日々変化しますので、常に新聞等で新しい動きの情報も入手してください。</li> <li>・授業態度に関する注意は次の通りです。</li> <li>・座席指定をします。</li> <li>・私語、携帯電話、途中退室、遅刻などは禁止です。</li> <li>・教室内での着帽、サングラス、メイク、携帯充電などは許可しません。</li> <li>・授業中に何度が注意をしても改善されない場合は、定期テストの点数が無効になります。</li> </ul>	

教科書	
・使用しない。	

プリント資料及び参考文献	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて配布します。</li> <li>・参考文献：「観光白書2020」</li> </ul>	

授業計画	
01.	はじめに
02.	わが国の観光政策概観 1 観光政策の意義、変遷
03.	わが国の観光政策概観 2 観光立国推進基本計画
04.	インバウンド政策の現状
05.	観光が地域に与える影響 1 経済効果の功罪
06.	観光が地域に与える影響 2 社会的、文化的な効果や悪影響について
07.	観光政策実現のプロセス
08.	観光と自然保護
09.	神戸市の観光政策 観光モデルコースを中心とした都市観光整備やプロモーションの実際
10.	海外の観光政策 1 ヨーロッパの事例
11.	海外の観光政策 2. アジアの事例
12.	神戸都市観光フィールドワーク発表 09の講義に基づき、受講者が神戸都市観光の実態を検証
13.	観光統計 観光政策立案の根拠となる各種観光統計の現状や問題点
14.	観光政策推進の課題と展望

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：	PBL（課題解決型学習）
イ：	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：	ディスカッション、ディベート
エ：	グループワーク
オ：	プレゼンテーション
カ：	実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。2時間程度</li> <li>・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容を整理してください。2時間程度</li> <li>・「観光白書」はよく読んでおいてください。</li> <li>・復習はレシメに基づいて、しっかり行ってください。</li> </ul>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	

実務経験の有無及び活用	
<ul style="list-style-type: none"> <li>実務経験あり</li> <li>・近畿日本ツーリスト株式会社において、主に海外旅行プログラムのソリューション営業、つまり個人旅行ではなく組織や団体の問題を解決するための企画を約30年間担当しました。その間に身につけた知識や情報、その入手方法を含めて、旅行企画や観光、観光事業における具体的な内容を講義するとともに、退社後に大学院で学んだ「観光による地域活性化」について一緒に考えます。また、タイのバンコクでの4年間の駐在経験をもとに、海外で働くことの意義や海外から日本を見ることの大切さも伝えます。</li> </ul>	

備考	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を予定していますが、都合によりスケジュールは変更になることがあります。</li> </ul>	